

“人情”や“恩”がカギ

奈良先端 富豪「兄貴」の成功論
大生が出版



自著の「出稼げば大富豪」を手にする黒岩さん

奈良先端科学技術大学院大学の学生でITベンチャー企業社長の黒岩将さん(29)が、バリ島有数の大富豪として知られる日本人男性「兄貴」(43)の経営哲学をまとめた著書「出稼げば大富豪」(Kロングセラーズ)を

出版した。「兄貴」が、不動産などで巨額の富を築く過程で身につけた24の成功理論を日記風に記述。

「人情」や「恩」など日本人的道徳観が「大富豪」になるためのキーワードとしてちりばめられている。この男性は、元暴走族リーダーで中学を卒業した後、複数の職を経て20歳代後半でバリへ移住。わずか十数年で23社の企業オーナーに上り詰めた。

黒岩さんが、バリで同男性と出会ったのは昨年12月。ベンチャー企業の経営不振に悩んでいた黒岩さんが、財力だけでなく島民からも慕われる男性の人物像にほれ込み、今年2、3月に約3週間かけて密着取材した。

成功論の一つ「隣人に幸あれ理論」は、自分より相手に利益をもたらすことが「自分にとっての大成功」につながるという。人助けが縁となり不動産で大成功した経験談が基になっている。

このほか感謝の気持ち、縁の重要性、決断のスピードなど、モラルの重要性やビジネス

理論を説いており、黒岩さんは「お金も上げ以上に人間としての基礎哲学が落とし込まれている。読んだ後に日常で実践するかがカギ

になる」と話している。著書はシリーズ化の予定で「兄貴の正体は徐々に明かされていく」という。四六判、全349頁。

1680円。県内では啓林堂や若草書店などで購入できる。ホームページ：<http://dekases.jp/>